



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association

個人投資家の証券投資に関する意識調査 (概要)

平成26年9月16日
日本証券業協会

《調査概要》

【投資経験者】

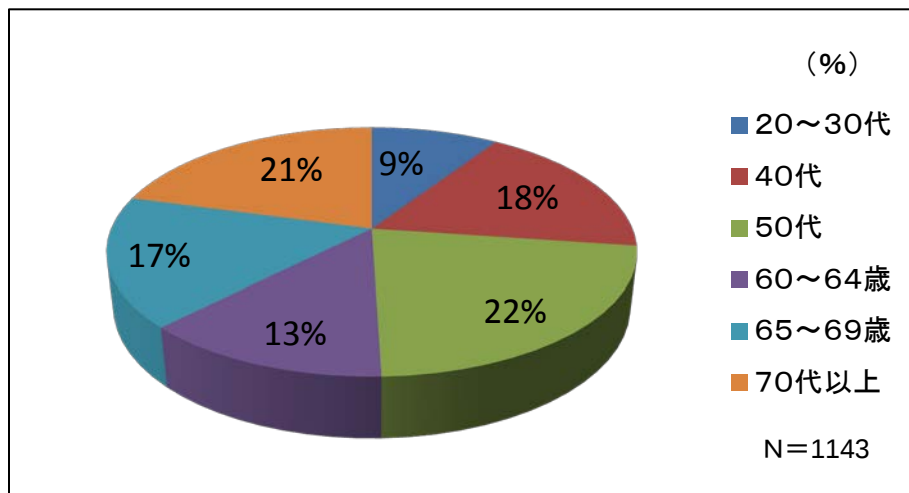
- ①調査地域：日本全国
- ②調査対象：日本全国の20歳以上の証券保有者
- ③サンプル数：2200（うち、回収1143）
- ④調査方法：郵送調査
- ⑤調査実施時期：平成26年7月2日～7月15日

【投資未経験者】

- ①調査地域：日本全国
- ②調査対象：日本全国の20歳以上の証券未保有者
- ③サンプル数：1050
- ④調査方法：インターネット調査
- ⑤調査実施時期：平成26年7月3日～7月9日

1. 個人投資家の年齢層と年収【投資経験者】

① 個人投資家(回答者)の年齢層

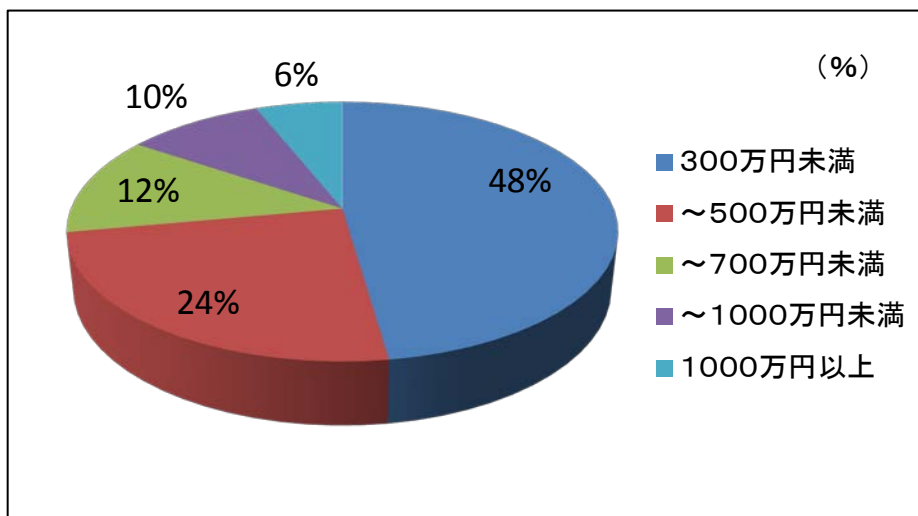


個人投資家(本調査の回答者)の過半数(51%)は60歳以上のシニア層。

【昨年調査】

60歳以上の個人投資家・・・53.1%

② 個人投資家の年収



個人投資家の年収は、300万円未満が48%と最も高く、約7割(72%)が年収500万円未満。

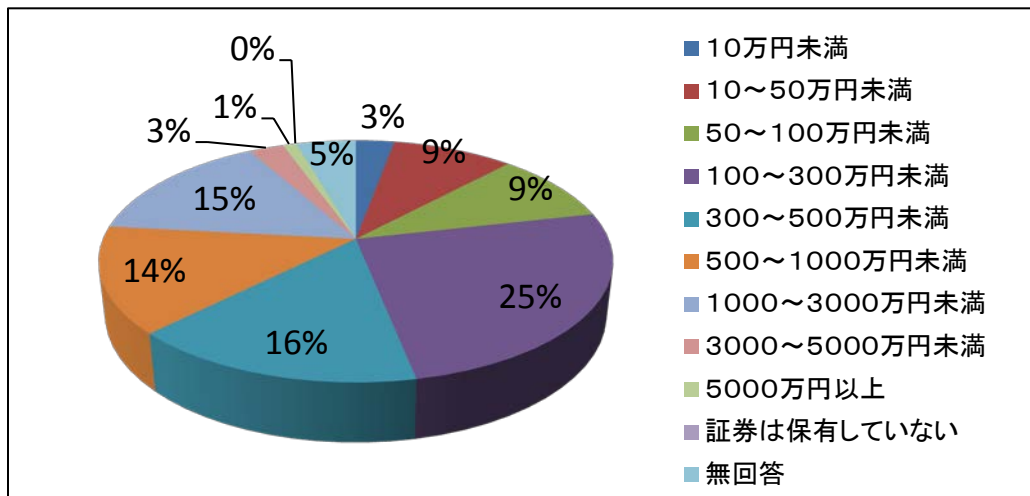
【昨年調査】

年収300万円未満・・・47%

年収500万円未満・・・70%

2. 個人投資家の証券、株式の保有額【投資経験者】

① 個人投資家の証券(株式、投資信託、公社債)保有額(時価)



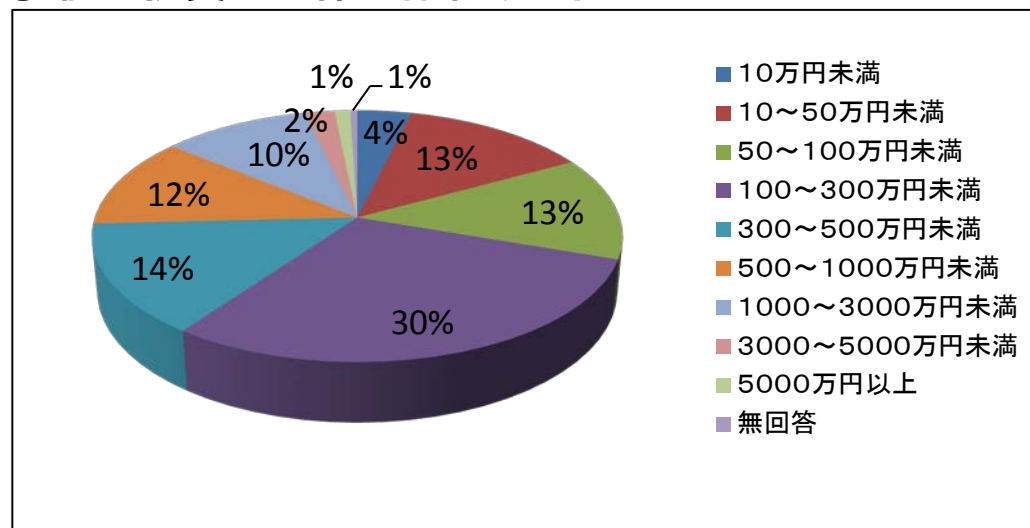
個人投資家の証券保有額は、「100~300万円未満」が25%と最も高く、7割超(76%)が保有額1,000万円未満。

【昨年調査】

100~300万円未満・・・26%

保有額1,000万円未満・・・73%

② 個人投資家の株式保有額(時価)



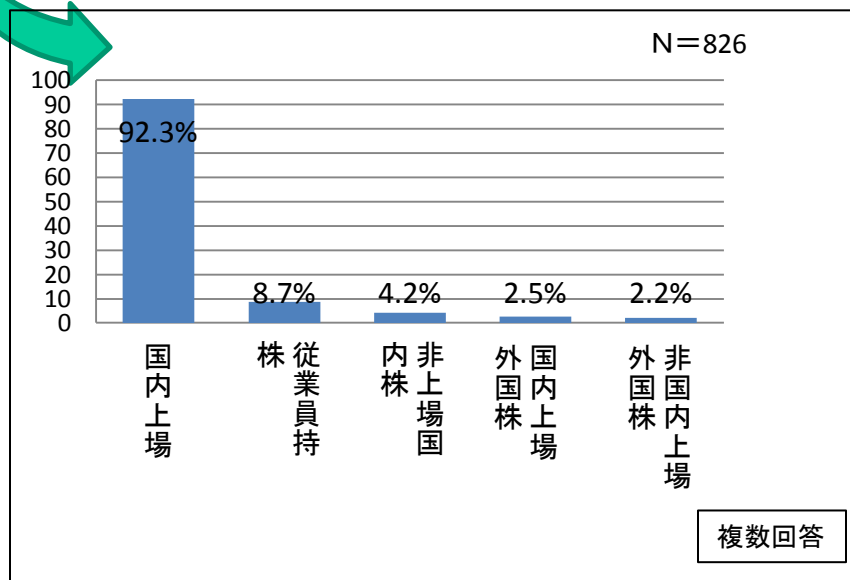
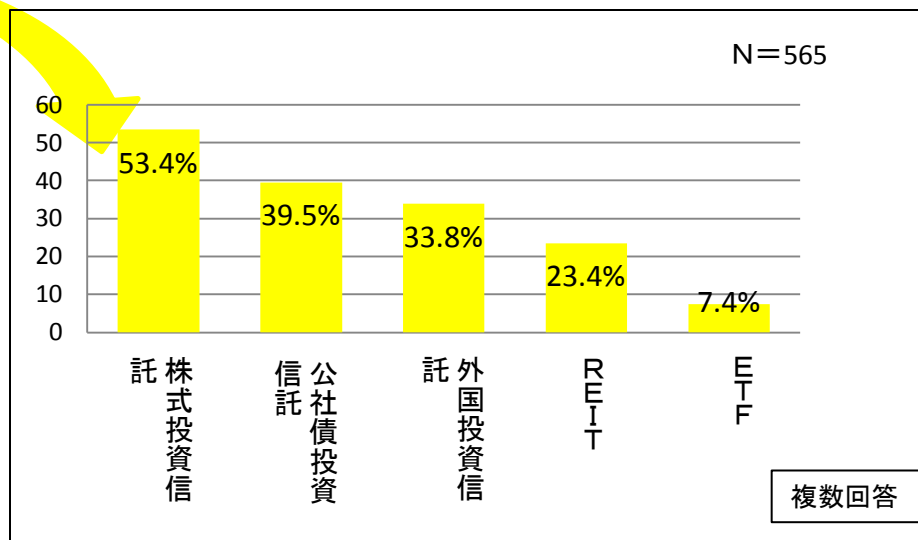
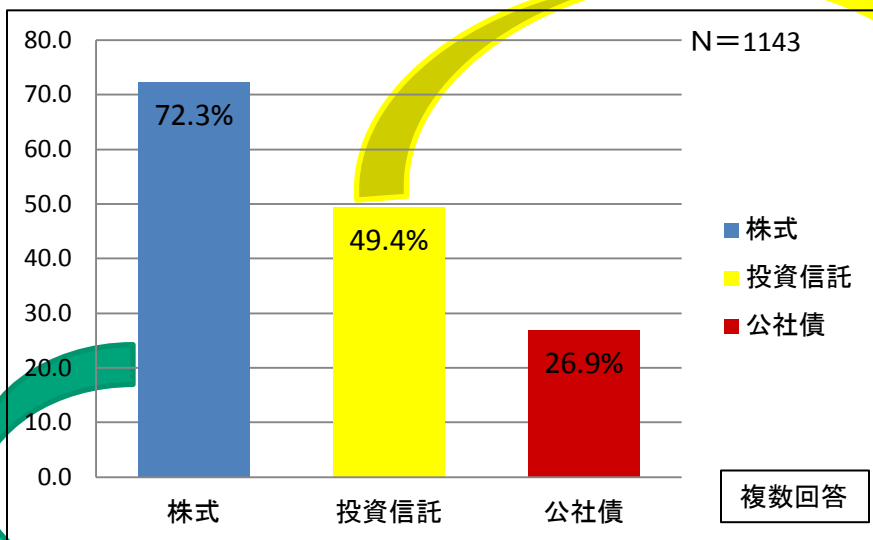
個人投資家の株式保有額は、「100~300万円未満」が30%と最も高く、7割超(74%)が保有額500万円未満。

【昨年調査】

100~300万円未満・・・29%

保有額500万円未満・・・70%

3. 個人投資家の証券の保有状況【投資経験者】

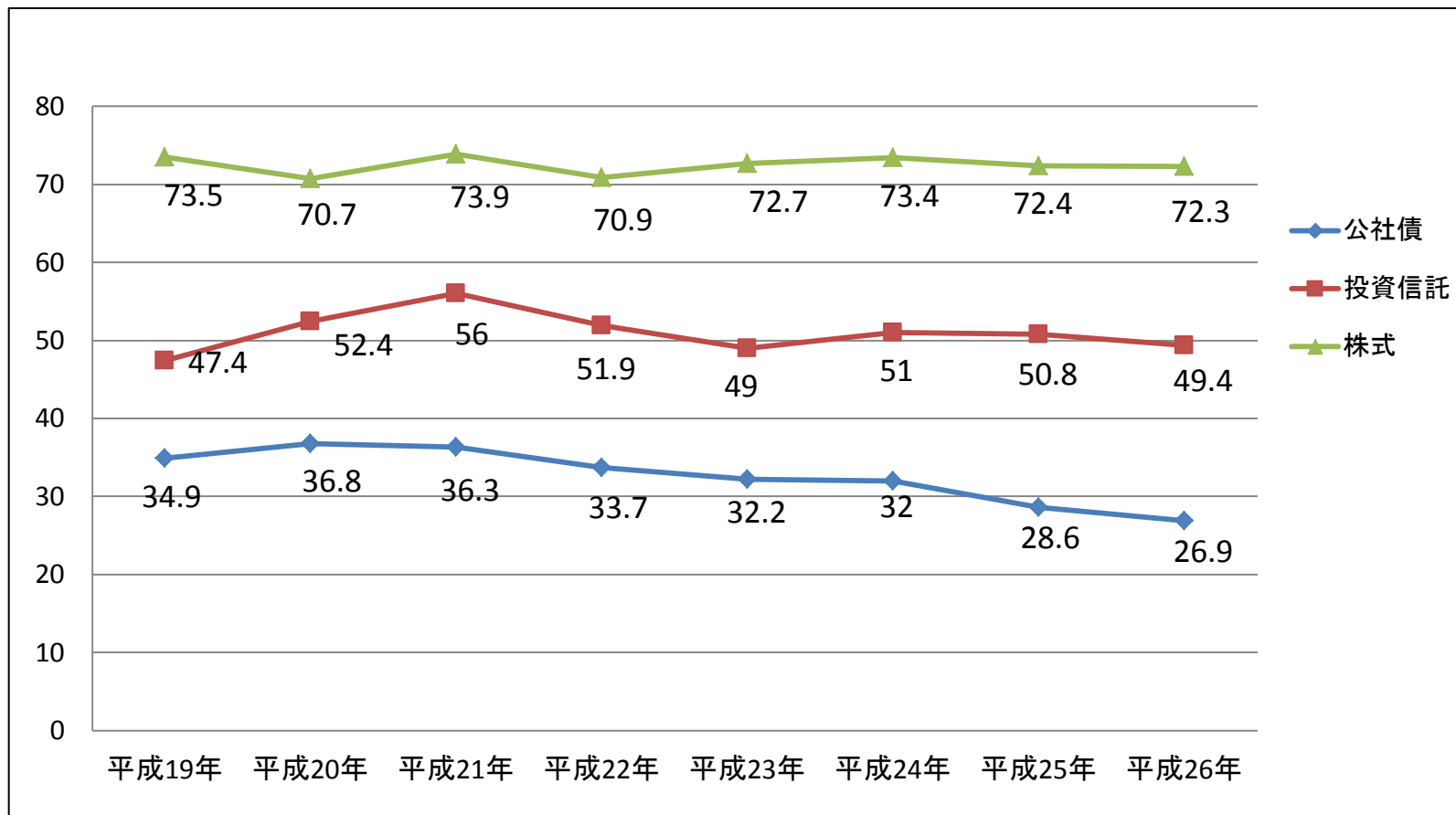


証券保有者の72.3%が株式、49.4%が投資信託、26.9%が公社債を保有している。
投資信託では株式投資信託が53.4%と最も保有率が高い。

【昨年調査】

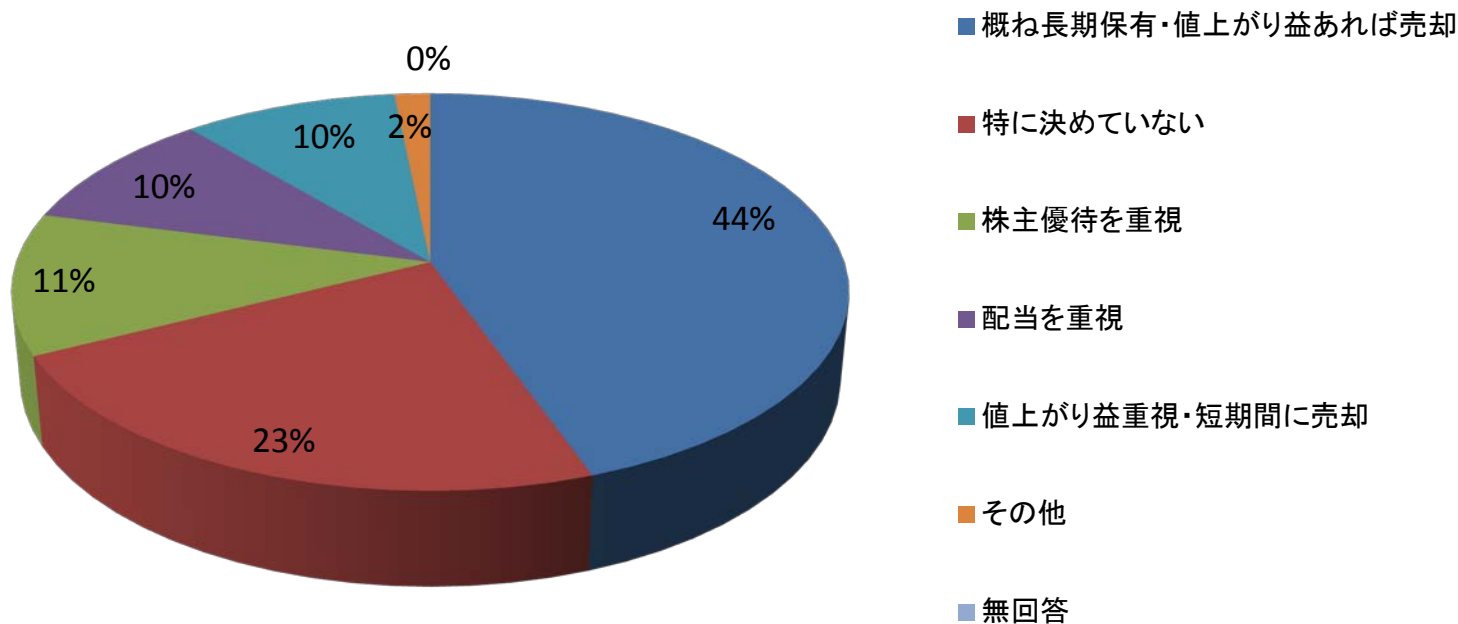
株式・・・72.7% 投資信託・・・50.8% 公社債・・・28.6%

4. 個人投資家の証券の保有状況の推移【投資経験者】



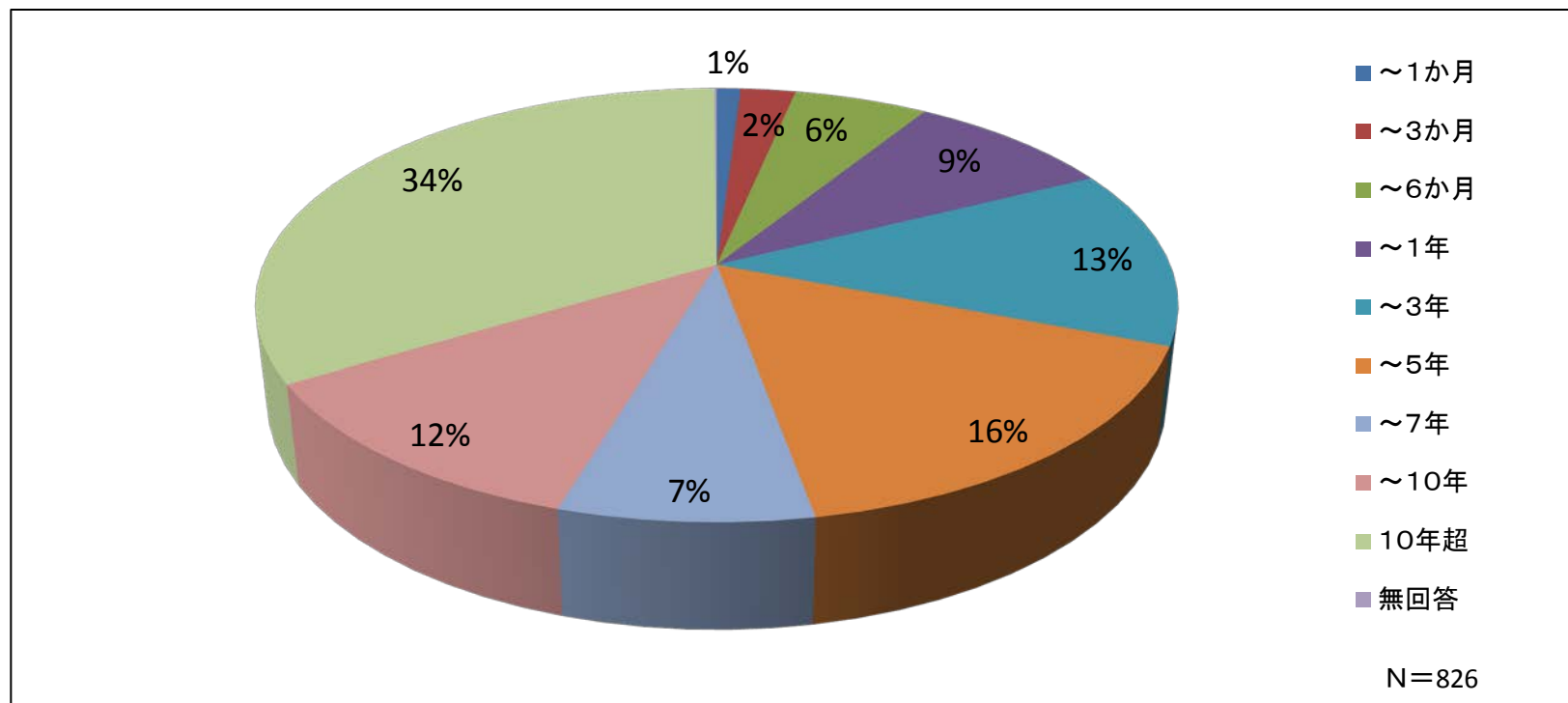
個人投資家の証券の保有状況は、平成19年以降、公社債にはわずかながら減少傾向が見られるものの、全体的に大きな変化はない。

5. 株式の投資方針【投資経験者】



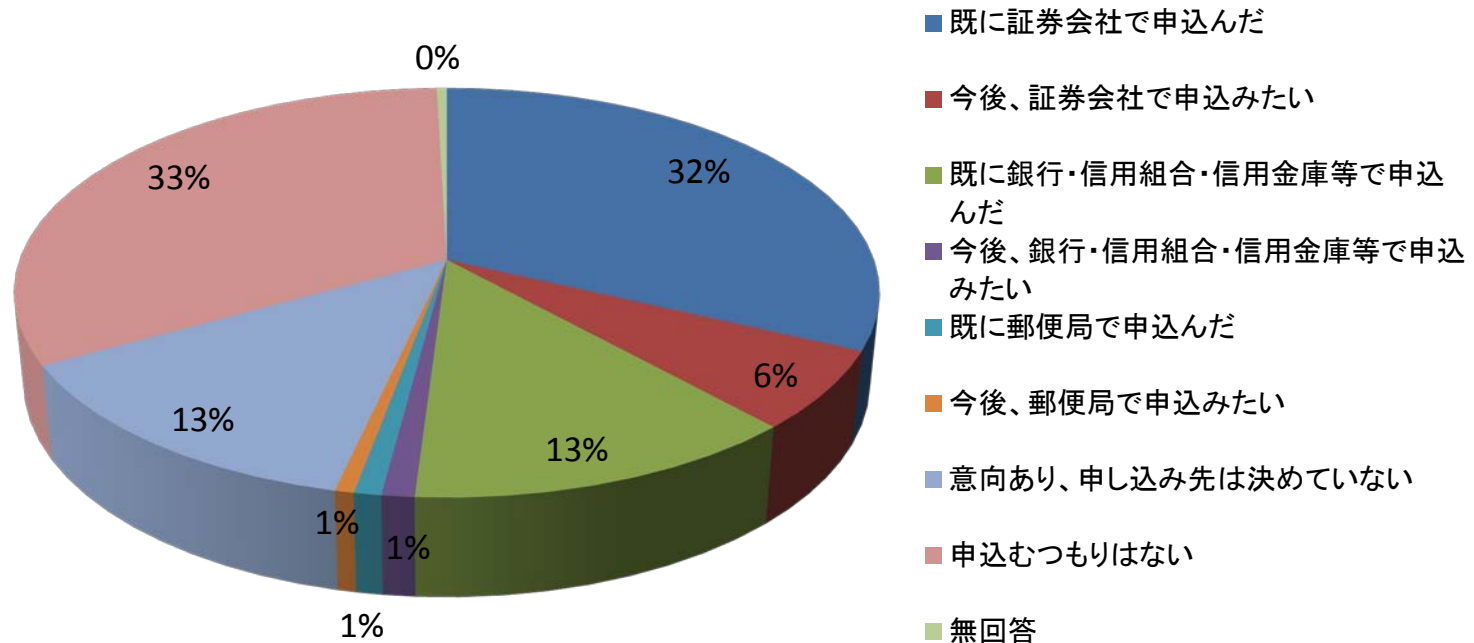
株式投資の方針は、「概ね長期保有・値上がり益あれば売却」が44%、「特に決めていない」が23%、「株主優待を重視」が11%、「配当を重視」が10%、「値上がり益重視・短期間に売却」が10%であった。

6. 株式の平均保有期間【投資経験者】



株式の平均保有期間は、10年超が34%で最も多く、半数以上が5年以上と回答。一方、1か月以下は1%、3か月以下は3%、6か月以下は9%、1年以下は18%であった。

7. NISA口座の開設申込状況【投資経験者】

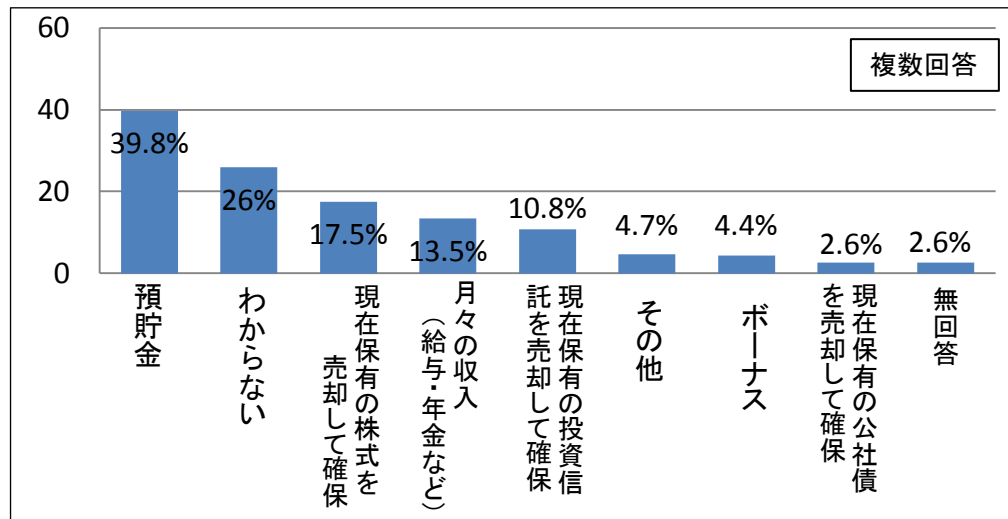


N=1143

NISA口座の開設者は46%で、そのうち、証券会社で申込んだ方は32%、銀行等で申込んだ方は13%であった。今後の申込意向は、証券会社で6%、銀行等で1%、未だ申込み先を決めていない方が13%であった。一方、申込むつもりはない方が33%であった。

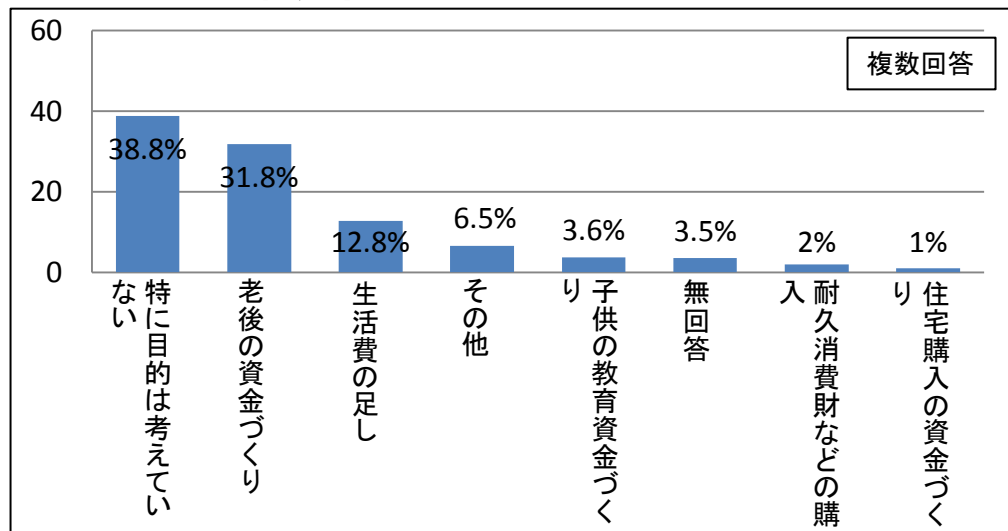
8. NISA口座での金融商品購入資金と利用目的【投資経験者】

○ NISA口座での金融商品購入資金



NISAの購入資金は、「預貯金」が39.8%、「現在保有の株式を売却」が17.5%、「月々の収入」が13.5%であった。

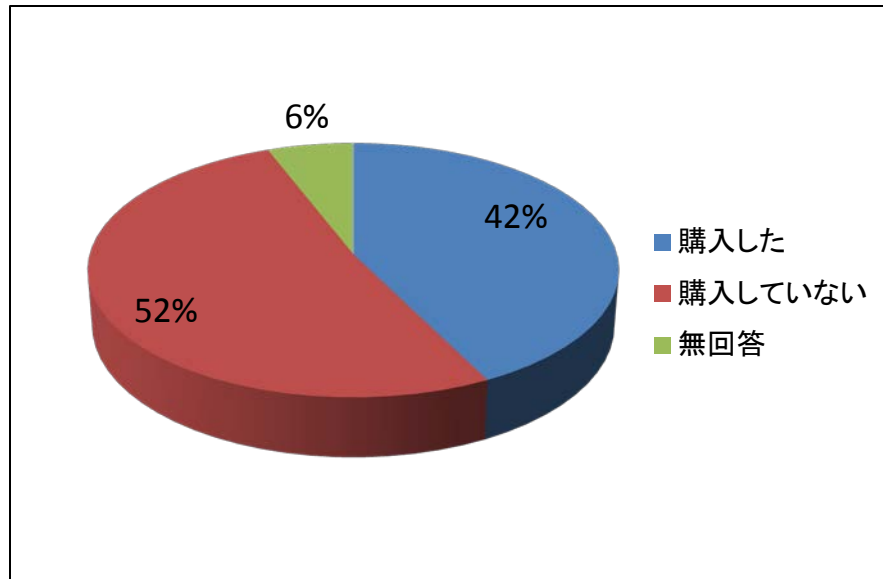
○ NISAの利用目的



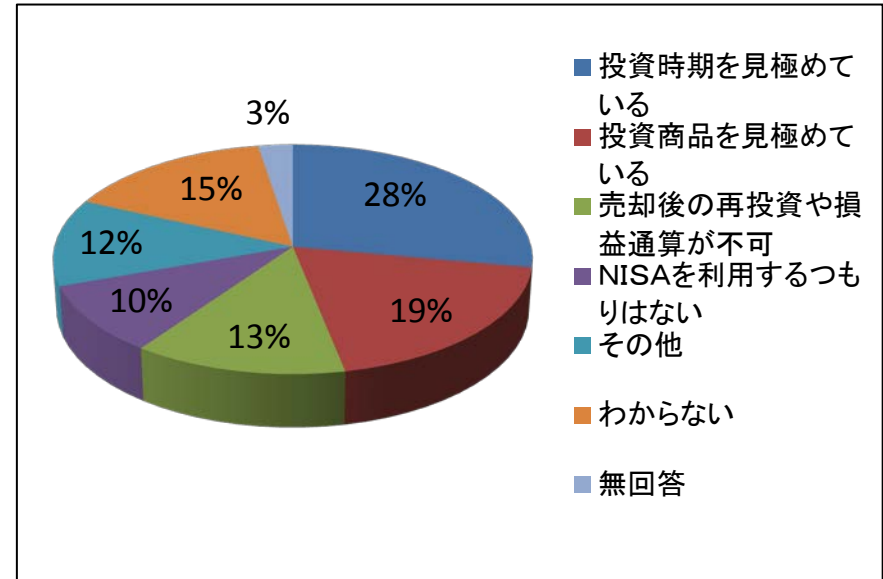
NISAの利用目的は、「特に目的は考えていない」が38.8%と最も多く、次いで「老後の資金づくり」が31.8%、「生活費の足し」が12.8%であった。

9. NISA口座での金融商品の非購入の理由【投資経験者】

○ NISA口座での金融商品の購入

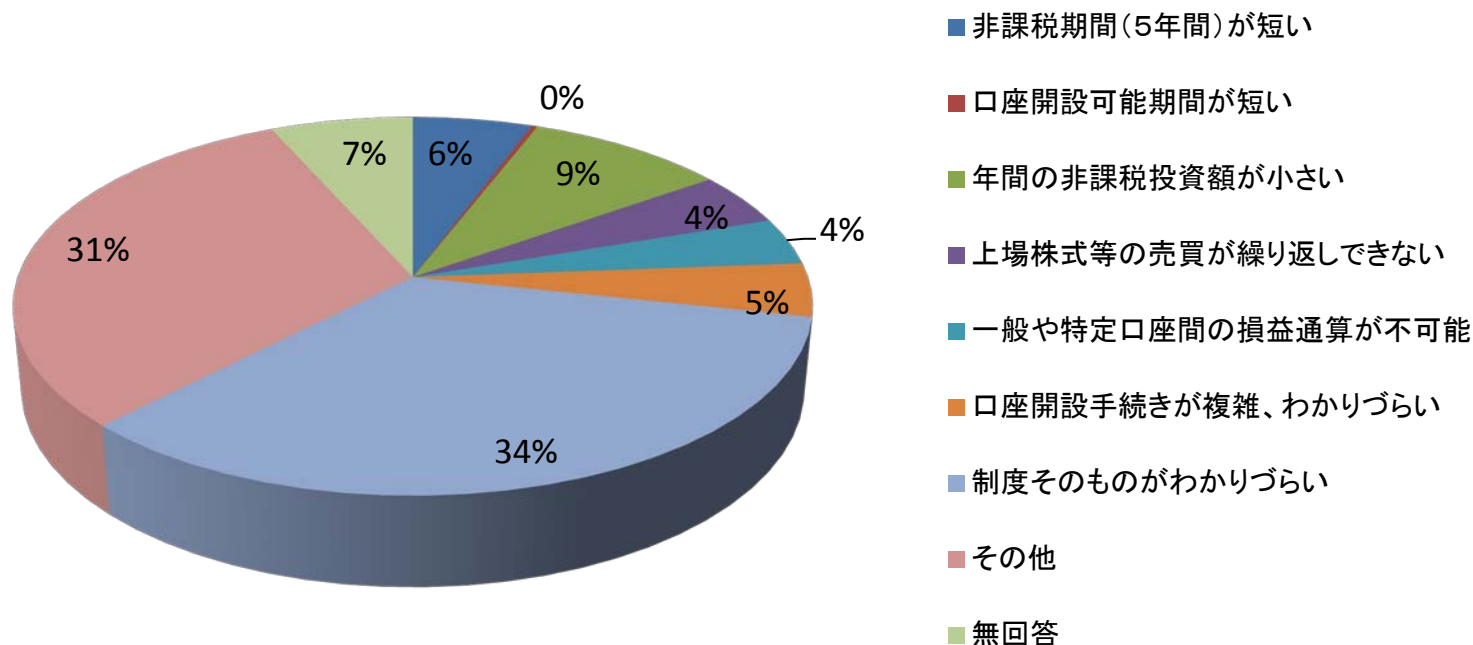


○ NISA口座での金融商品の非購入の理由



- ・ NISA口座で金融商品を購入した方は42%、いまだ購入していない方は52%であった。
- ・ このうち、購入していない方のその理由は、「投資時期を見極めている」28%、「投資商品を見極めている」が19%、「売却後の再投資・損益通算が不可」が13%と続く。
- ・ NISA口座開設者のうち「NISAを利用するつもりはない」が10%であった。

10. NISAを申し込まない理由【投資経験者】

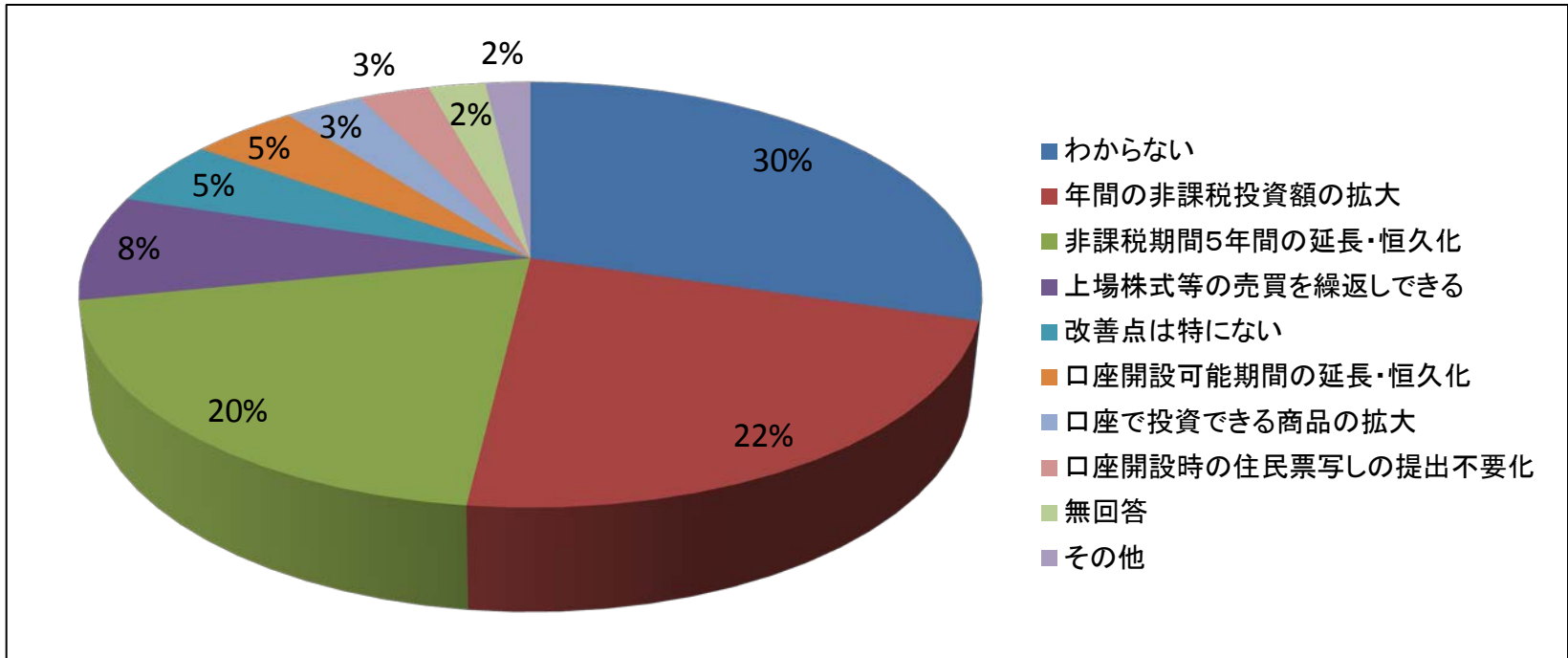


N=374

NISAを申込むつもりはない方でその理由は、「制度そのものがわかりづらい」が34%と最も多く、「年間の非課税投資額が小さい」が9%、「非課税期間(5年間)が短い」が6%と続く。

11. NISAの改善点【投資経験者】

○ NISAの最も改善すべき点について

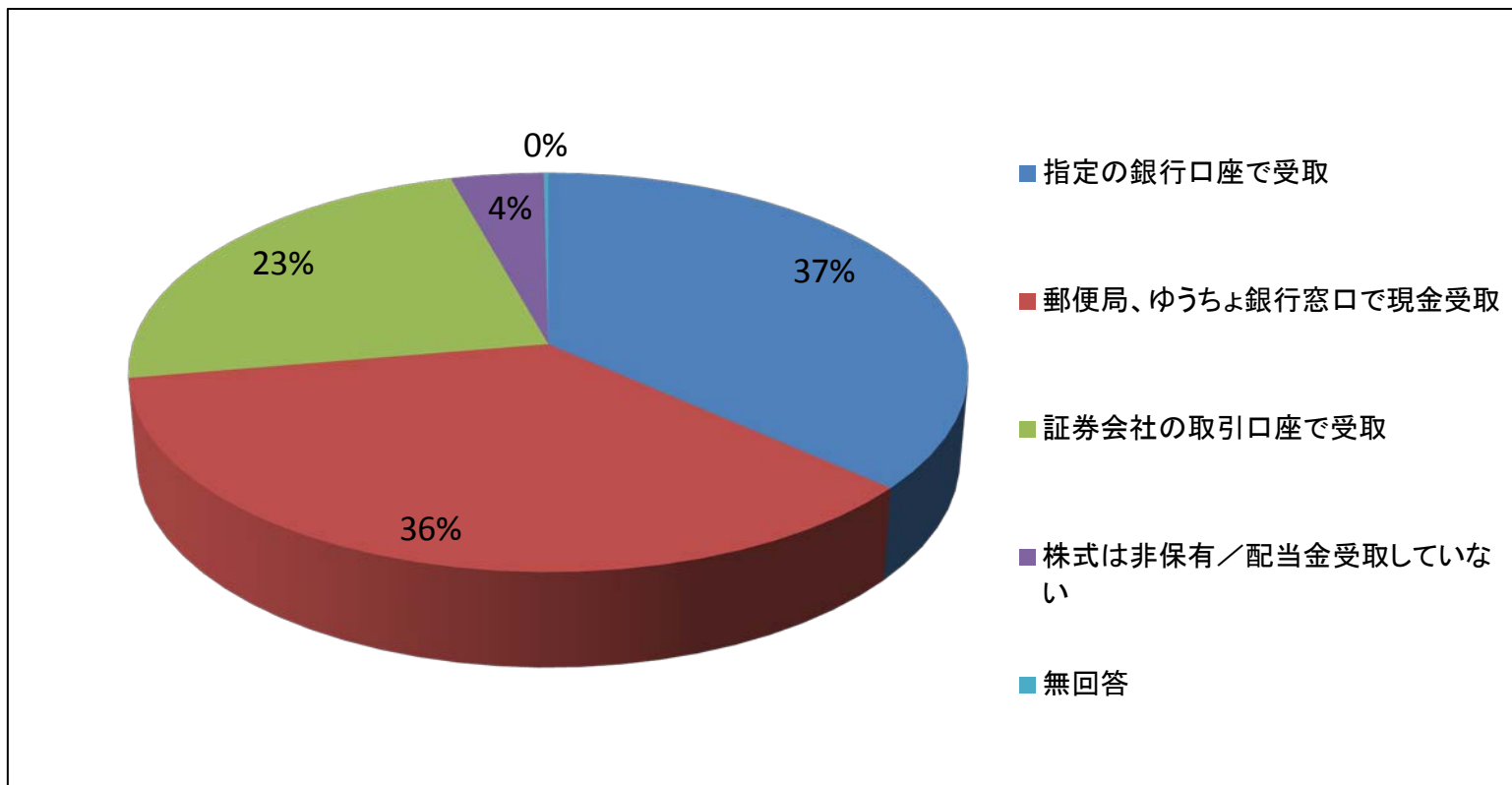


NISAの最も改善すべき点は、「年間の非課税投資額の拡大」が22%、「非課税期間5年間の延長・恒久化」が20%、「上場株式等の売買を繰返しできる」が8%、「口座開設可能期間の延長・恒久化」が5%と続く。

【昨年調査】

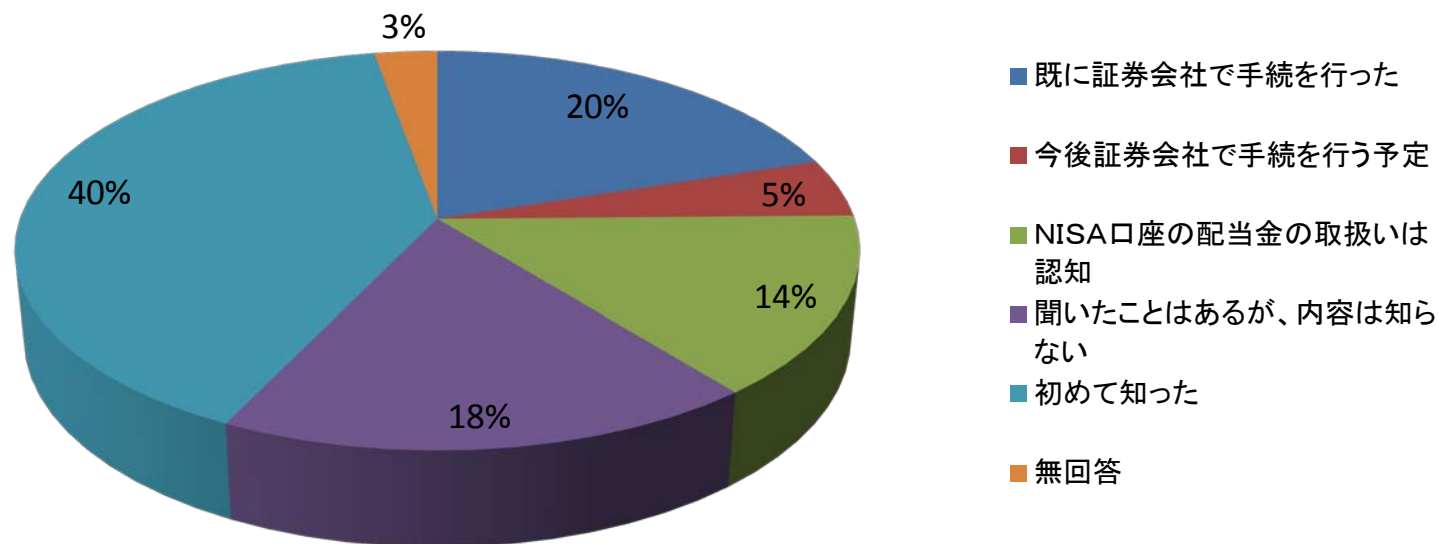
「非課税投資額の拡大」・・・24.8%

12. 株式配当の受領方法【投資経験者】



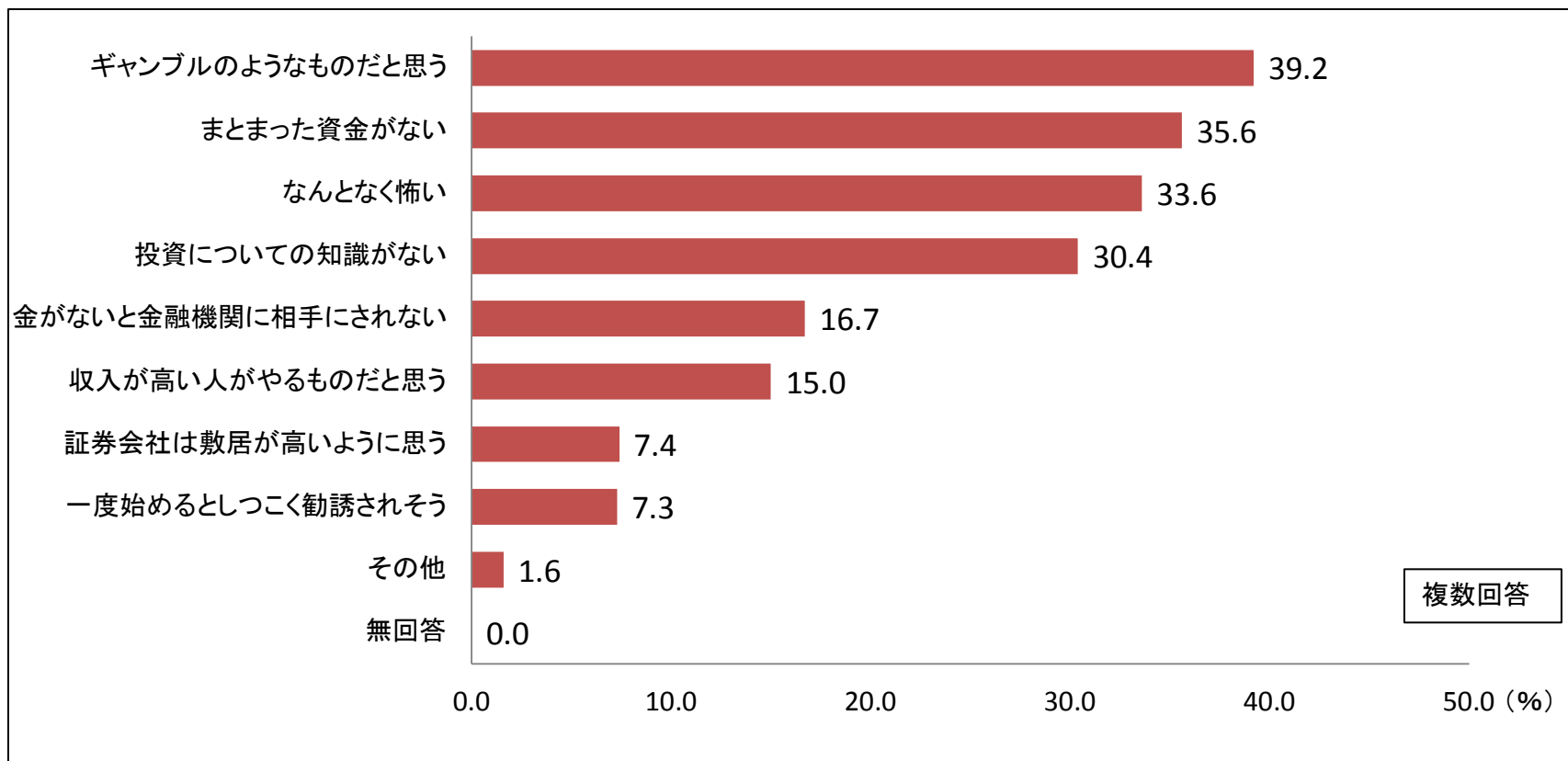
株式配当の受領方法は、「指定の銀行口座で受領」が37%、「郵便局、ゆうちょ銀行窓口で現金受取」が36%、「証券会社の取引口座で受取」が23%であった。

13. 株式数比例配分方式の認知度【投資経験者】



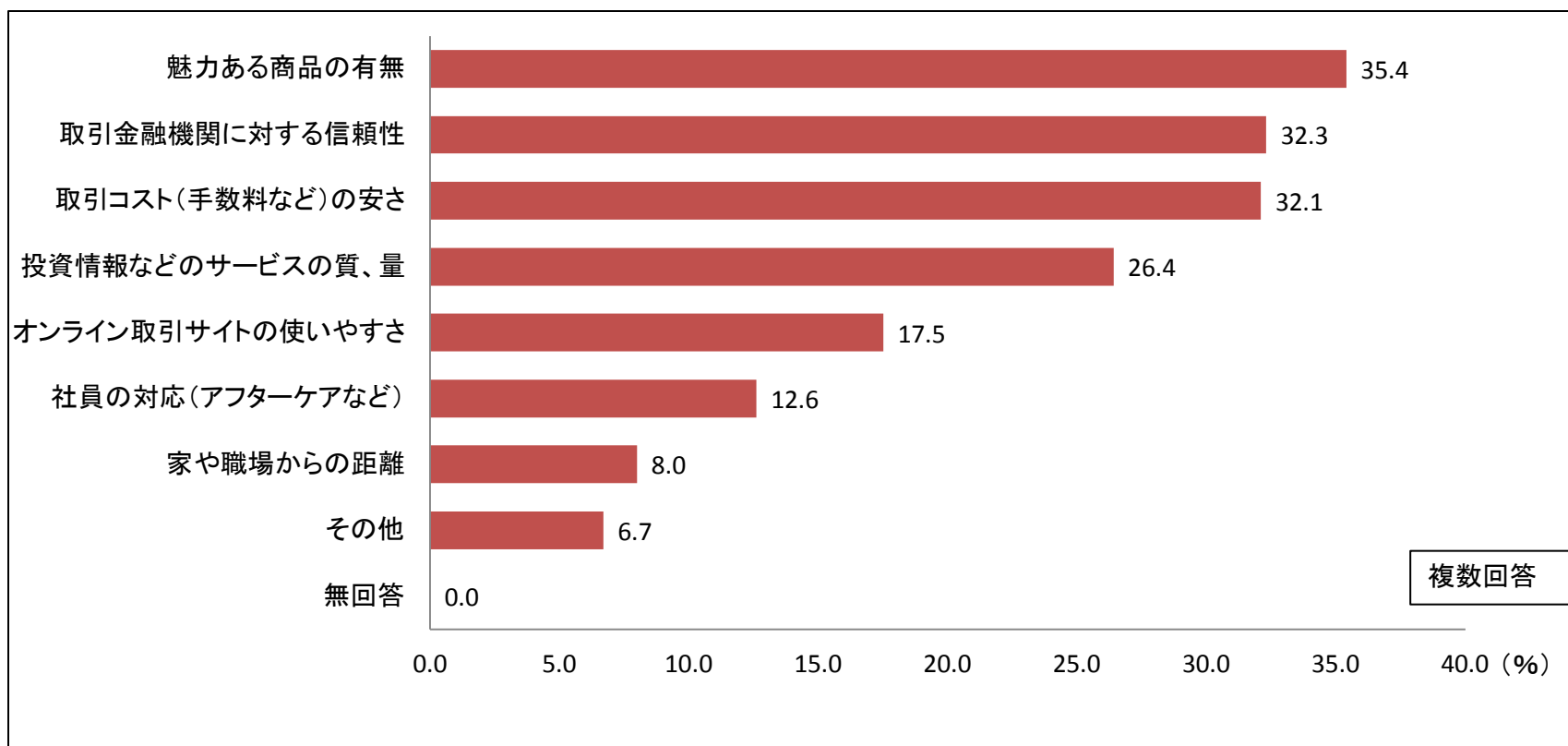
株式数比例配分方式は、「既に証券会社で手続きを行った」が20%、「今後手続きを行う予定」が5%、「内容は知っている」が14%であった（合計39%）。一方、「初めて知った」が40%、「内容は知らない」が18%（合計58%）であった。

14. 証券投資を行わない理由【投資未経験者】



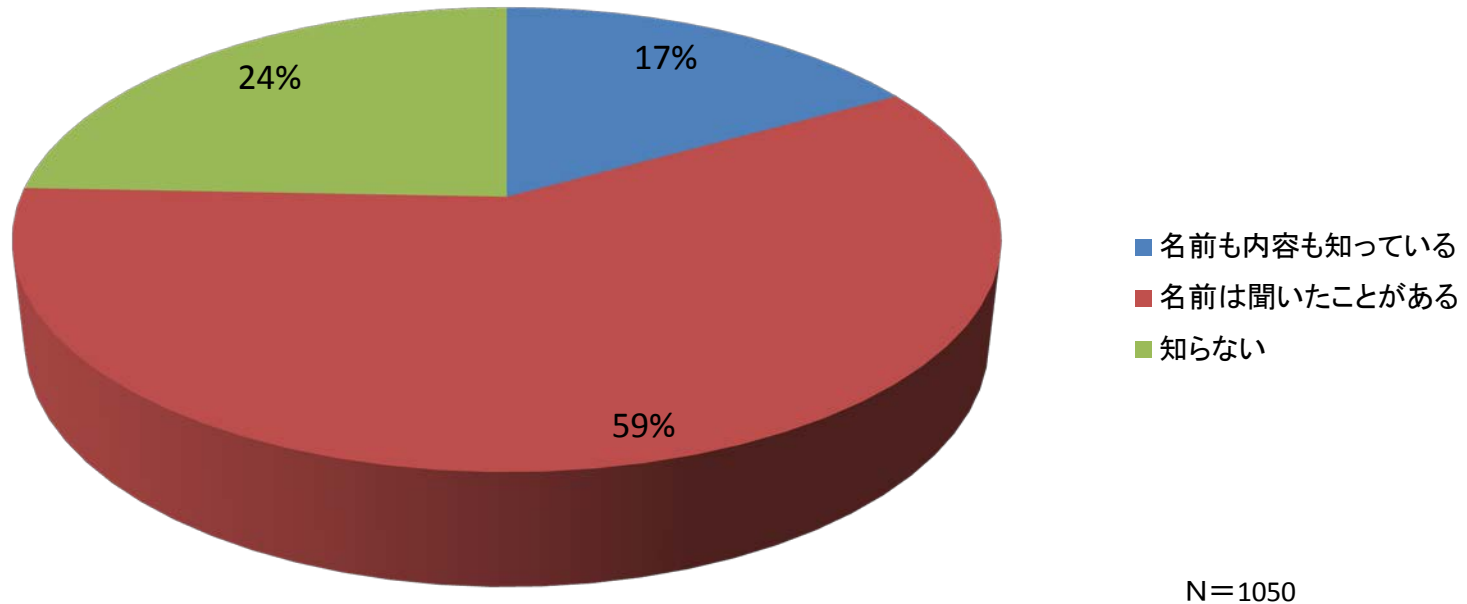
証券投資を行わない理由は、「ギャンブルのようなものだと思う」が39.2%、「まとまった資金がない」が35.6%、「なんとなく怖い」が33.6%、「投資についての知識がない」が30.4%であった。

15. 今後投資する場合の金融機関の選定基準【投資未経験者】



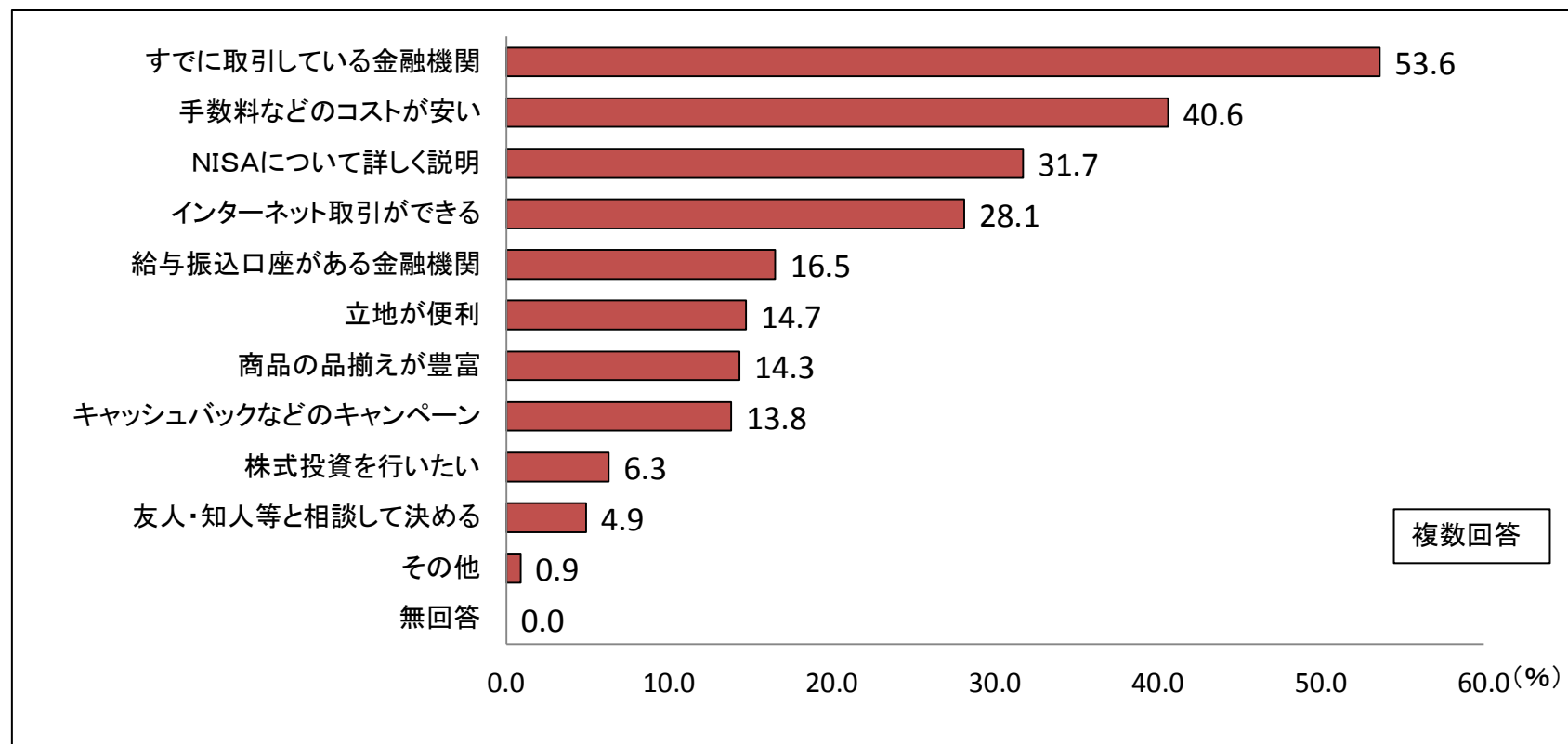
金融機関の選定基準は、「魅力のある商品の有無」が35.4%、「取引金融機関に対する信頼性」が32.3%、「取引コスト(手数料など)の安さ」が32.1%、「投資情報などのサービスの質、量」が26.4%であった。

16. NISAの認知度【投資未経験者】



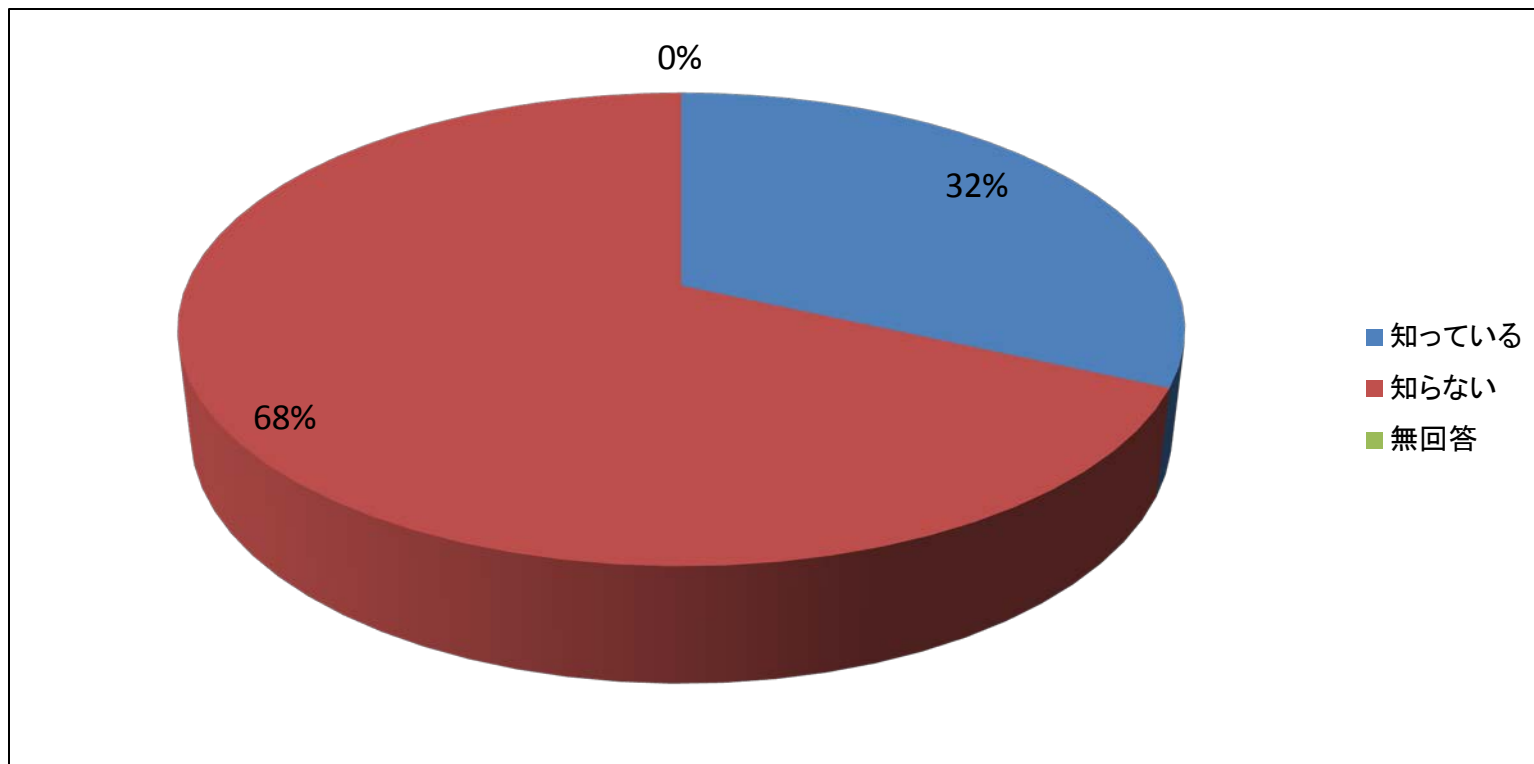
NISAについて、「内容は知らないが、聞いたことがある」が59%と最も多く、「内容まで知っている」が17%(合計76%)、「知らない」が24%となっている。

17. NISAを申込む場合の金融機関の選定基準【投資未経験者】



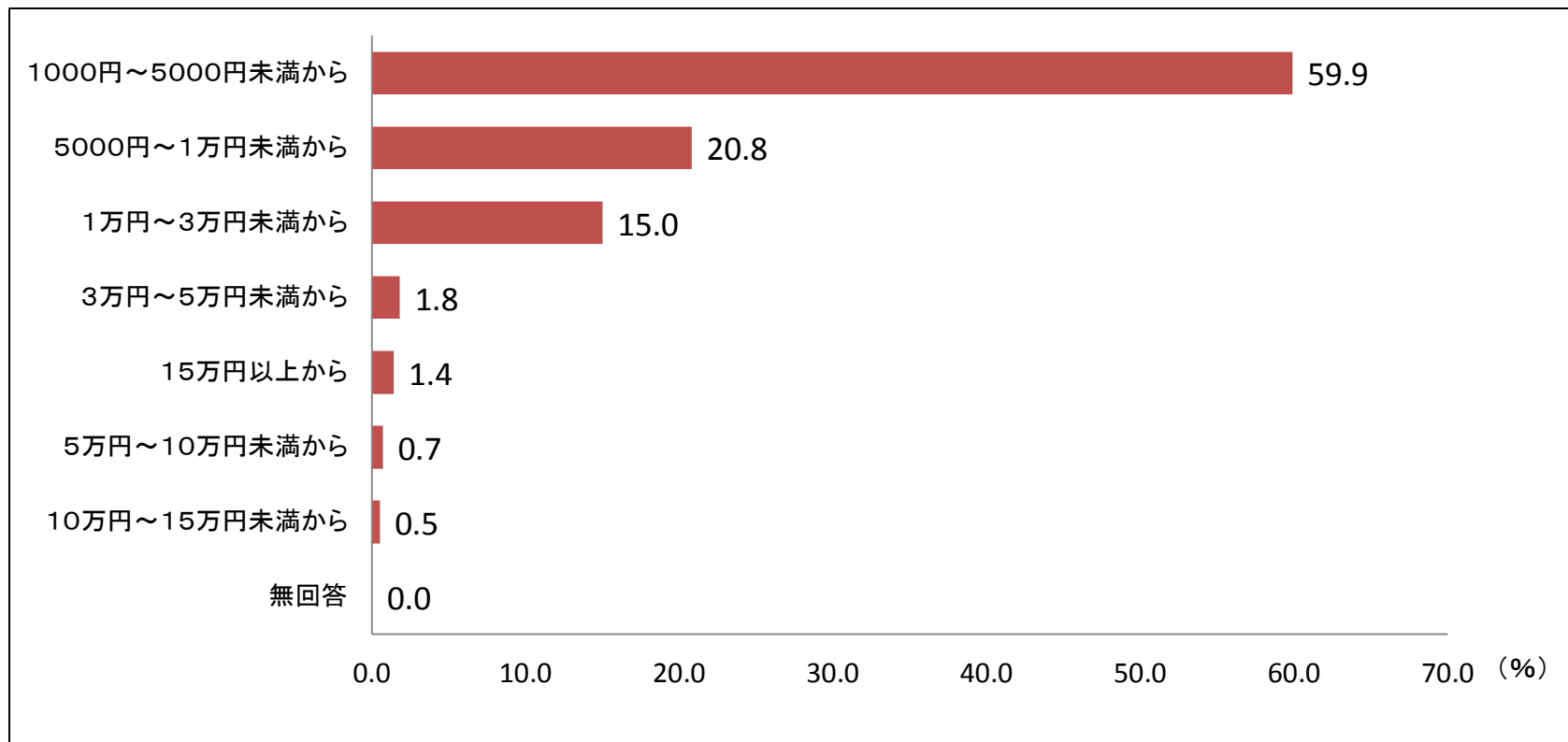
NISAを申込む場合の金融機関の選定基準は、「すでに取引している金融機関」が53.6%、「手数料などのコストが安い」が40.6%、「NISAについての詳しく説明」が31.7%、「インターネット取引ができる」が28.1%であった。

18. NISAを利用した少額積立方式の認知度【投資未経験者】



NISAを利用した少額積立方式について、「知らない」が68%、「知っている」が32%であった。

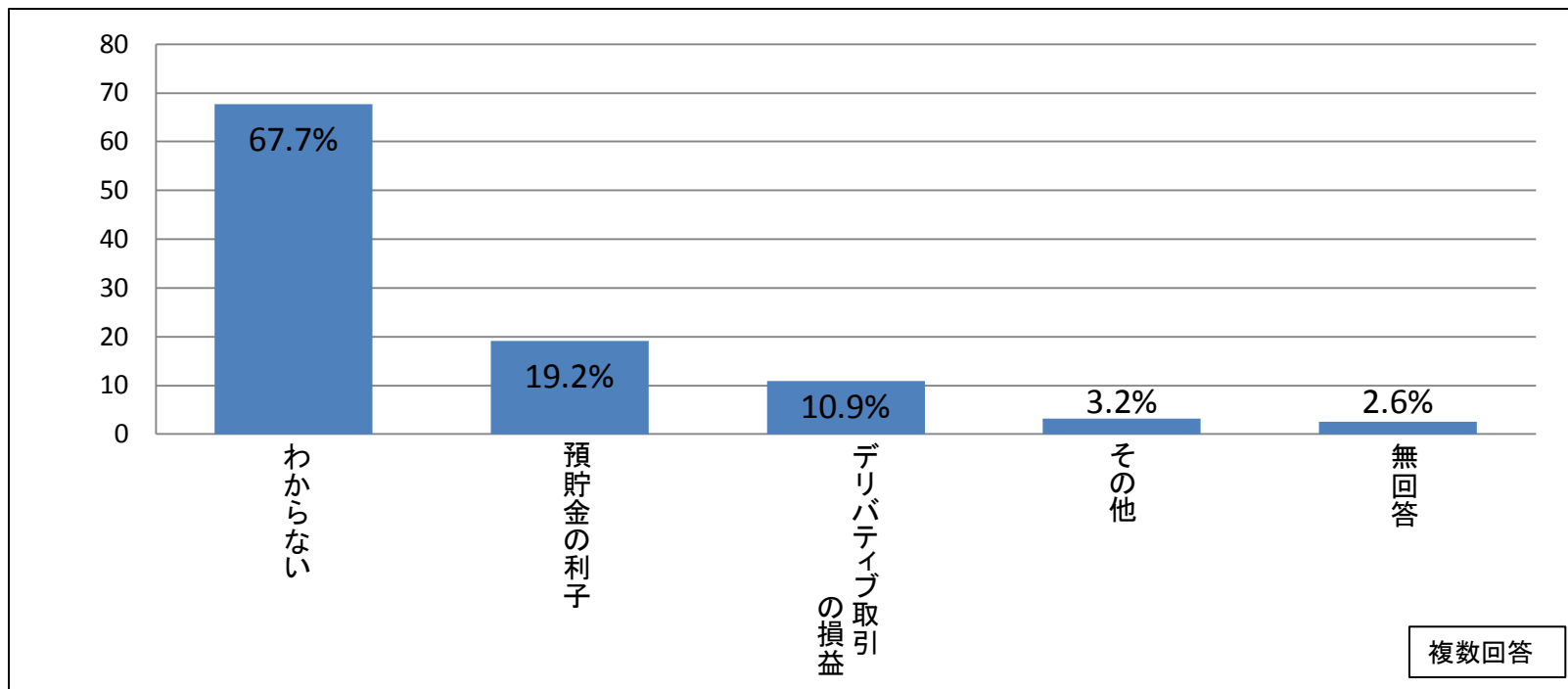
19. NISAで少額積立する場合の月額【投資未経験者】



NISAで少額積立する場合の月額は、「1000～5000円未満」が59.9%、「5000円～1万円未満」が20.8%、「1万円～3万円未満」が15.0%であった。

20. 金融所得課税の一体化について【投資経験者】

○ 損益通算が必要と感じる金融商品



損益通算が必要と感じる金融商品は、「預貯金の利子」、「デリバティブ取引の損益」が高い。

【昨年調査】

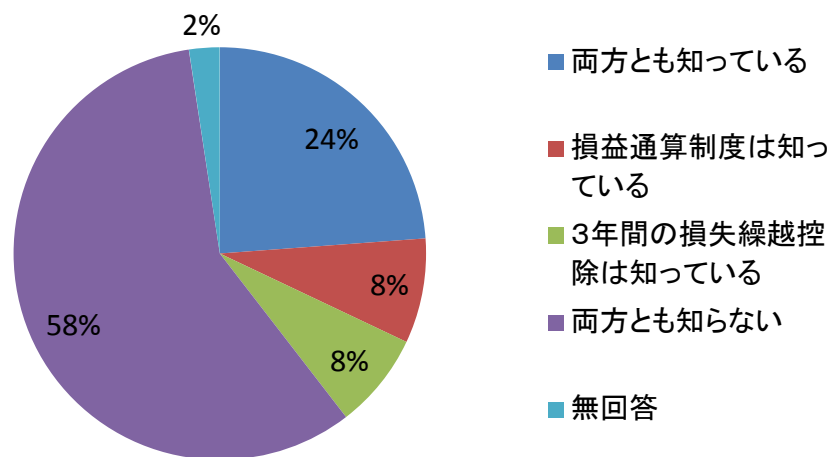
「預貯金の利子」・・・48.4%

「デリバティブ取引の損益」・・・39.3%

「わからない」・・・15.6%

21. 損失の繰越控除について【投資経験者】

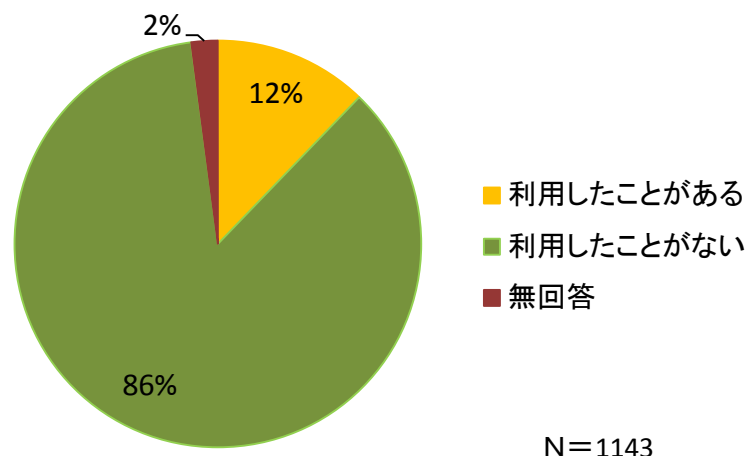
○ 損益通算制度、3年間の損失繰越控除の認知状況



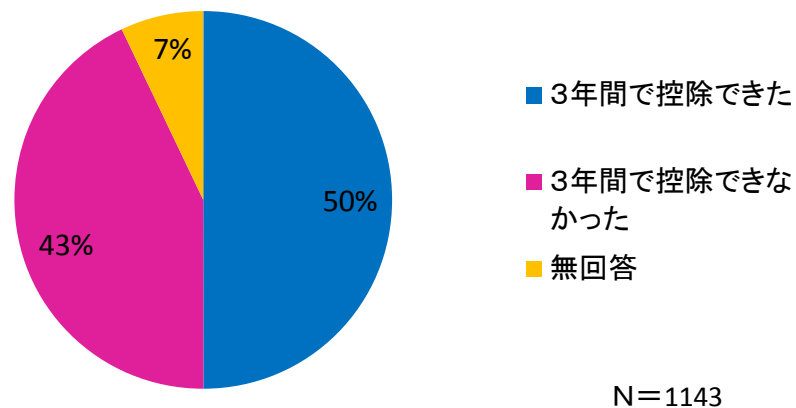
「損益通算制度」、「3年間の損失繰越控除」の両方またはいずれかを知っている方は40%であった。

「損失の繰越控除」を利用した方は12%、うち3年間で損失の控除ができた方は50%で、控除できなかった方は43%ある。

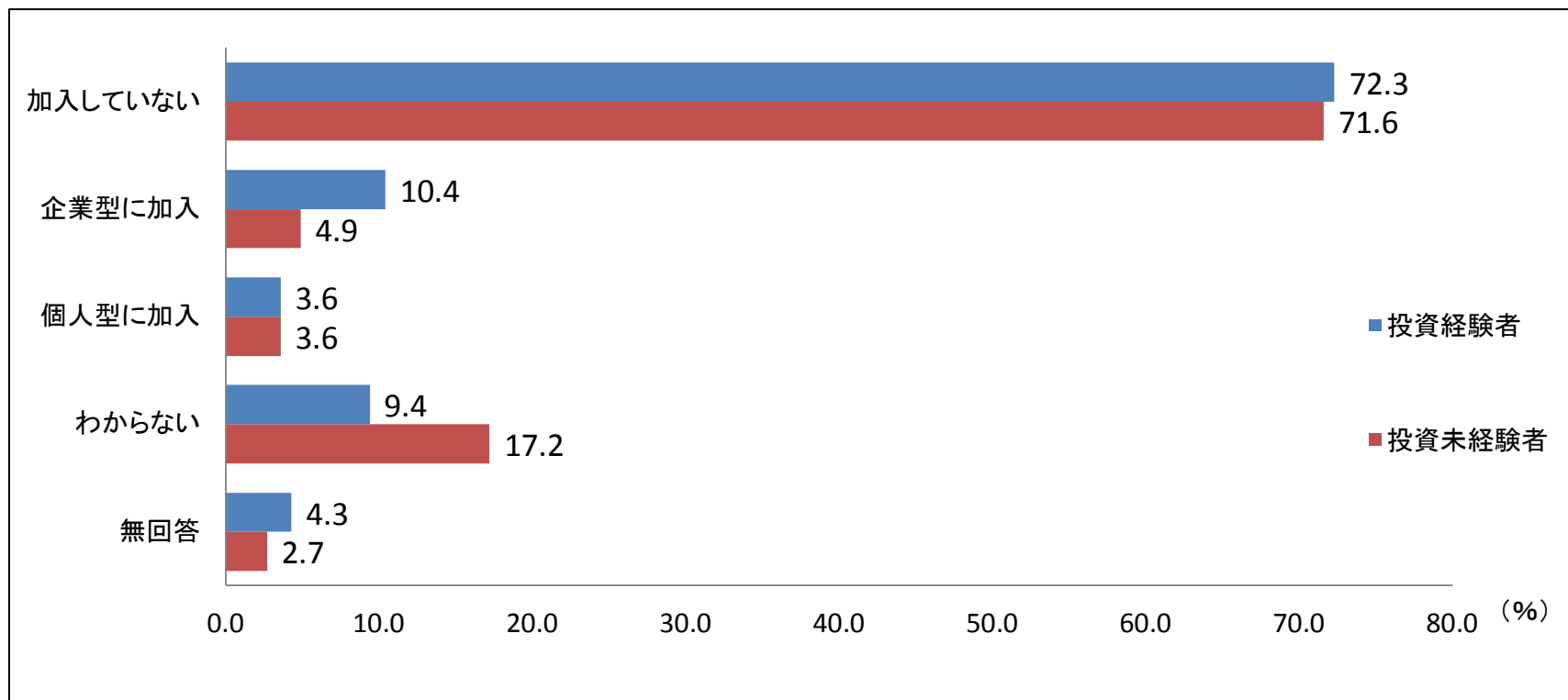
○ 損失の繰越控除の利用経験について



○ 3年間の損失の繰越控除の可否

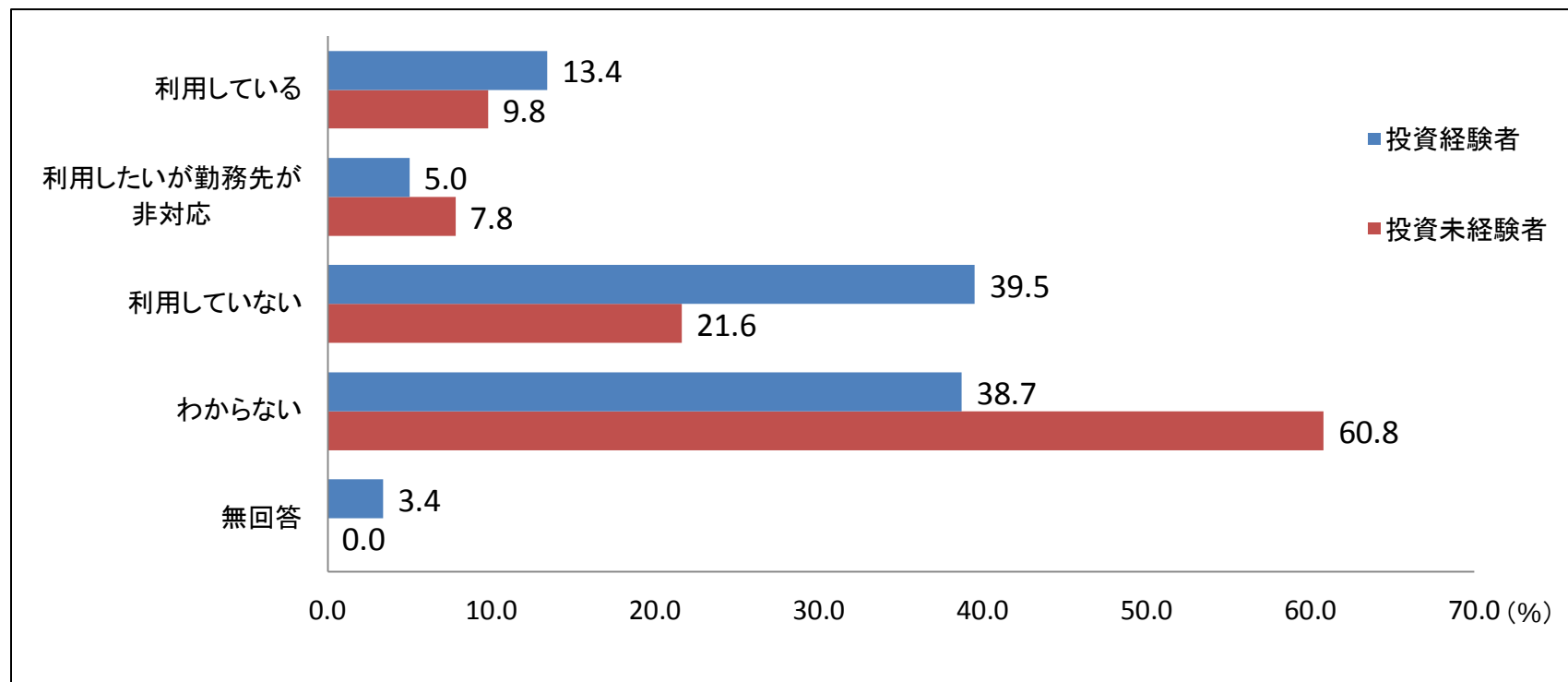


22. 確定拠出年金制度の加入について



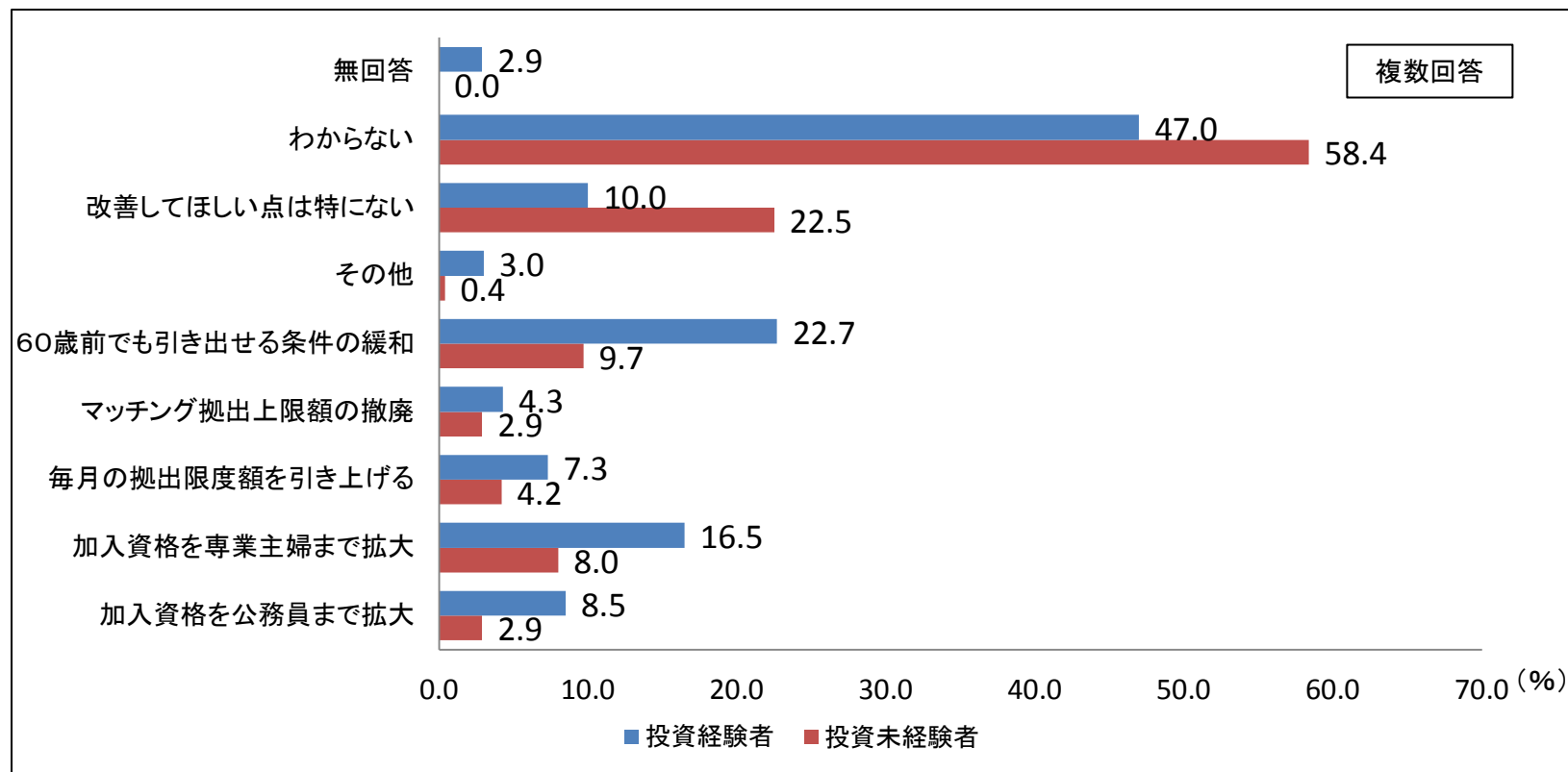
確定拠出年金制度は、投資経験者、投資未経験者ともに「加入していない」が約7割を超える。「企業型に加入している方」は、投資経験者10.4%、投資未経験者4.9%であった。

23. 確定拠出年金(企業型)におけるマッチング拠出の利用状況



確定拠出年金(企業型)におけるマッチング拠出を「利用している」方が投資経験者13.4%、投資未経験者9.8%で、「利用したいが勤務先が非対応」が投資経験者5%、投資未経験者7.8%であった。一方、「わからない」が投資経験者38.7%、投資未経験者60.8%であった。

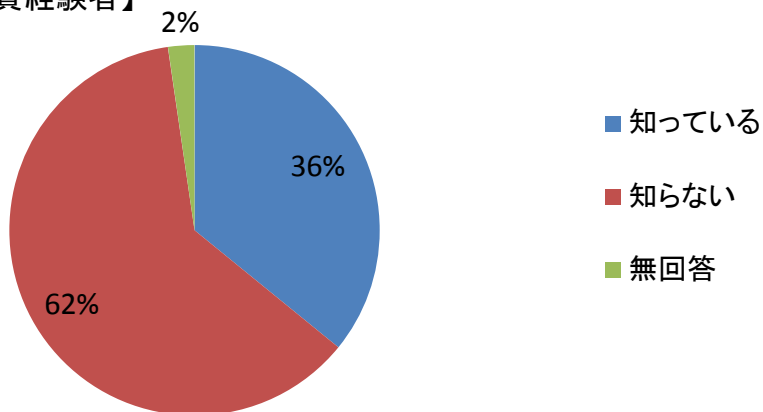
24. 確定拠出年金制度の改善すべき点



確定拠出年金制度の改善すべき点は、「60歳前でも引き出せる条件の緩和」、「加入資格を専業主婦まで拡大」、「加入資格を公務員まで拡大」が多い。

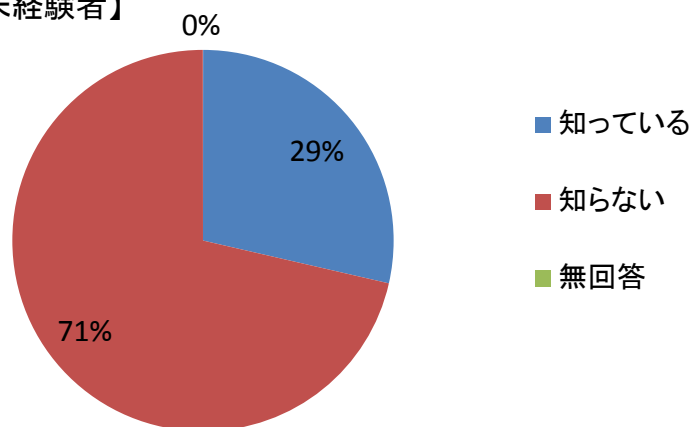
25. マイナンバー利用開始の認知

【投資経験者】



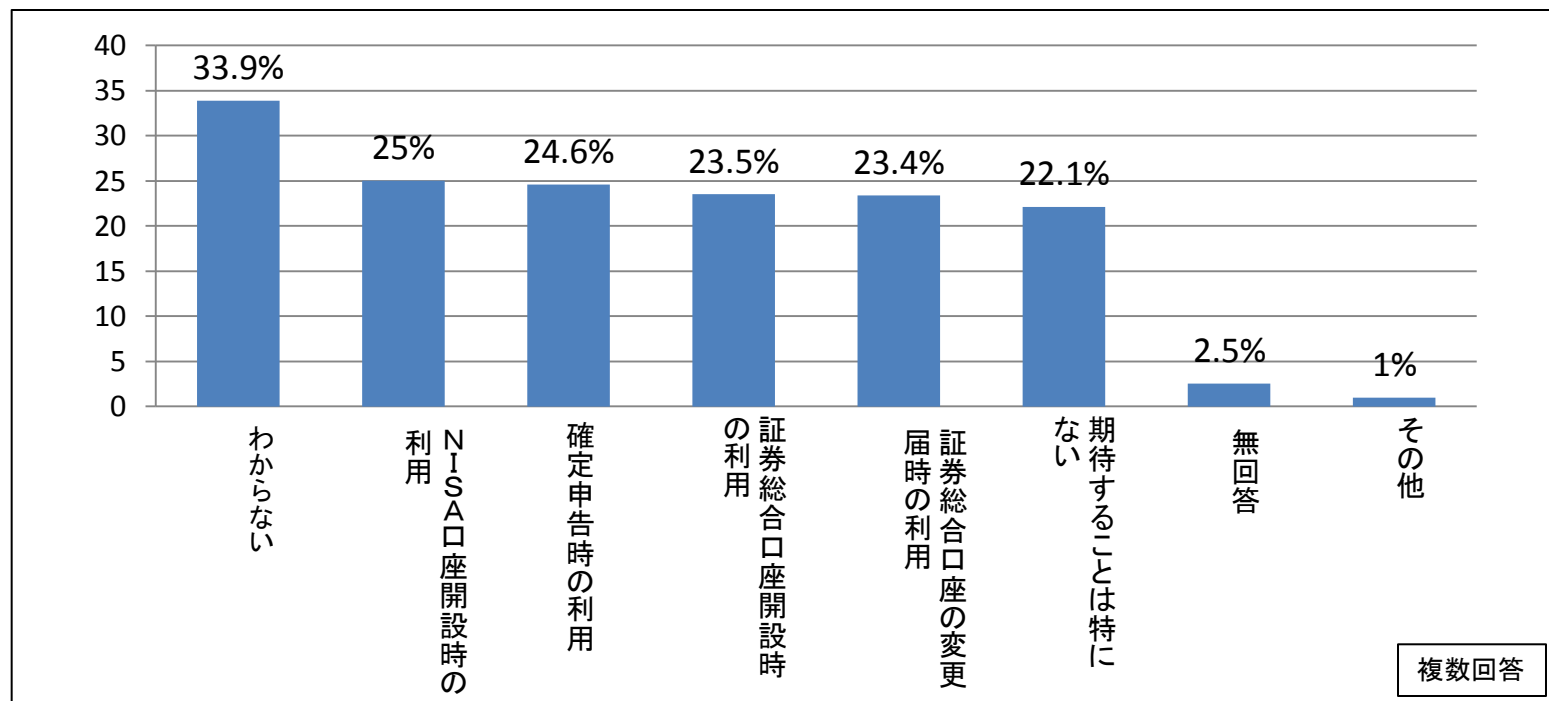
マイナンバーの利用開始については
(投資経験者)、「知らない」(62%)が
「知っている」(36%)を上回る。

【投資未経験者】



マイナンバーの利用開始については
(投資未経験者)、「知らない」(71%)が
「知っている」(29%)を上回る。

26. マイナンバーの利用拡大に期待すること【投資経験者】



利用範囲拡大に期待することは、「NISA口座開設時の利用」、「確定申告時の利用」、「証券総合口座開設・変更時の利用」の回答が多い。